

基本レベル(属レベル)を軸とする語彙素の意味変化 —ベルギー南部言語地図を中心に—

小宮 美奈
(宇都宮共和大学)

本発表では、Lakoff (1987) を発展させた Kleiber (1990) の認知意味論において標準フランス語におけるカテゴリー-OISEAU のプロトタイプとされるカテゴリー-MOINEAU に注目し、ベルギー南部言語地図の第6、8巻(ALW,1994,2006)において、カテゴリー-OISEAU のなかでカテゴリー-MOINEAU のプロトタイプ性が語彙として示されており、その語彙素が、地域により、カテゴリー-OISEAU に総称化していること、また、カテゴリー-PIGEON の語彙素がカテゴリー-PIGEON DOMESTIQUE に特殊化していることなどの言語学的事実を指摘する。また、このことにより、ベルギー南部では、動植物語彙が Birlin (1974) らによる民間生物分類の属のレベルより生命形態および種のレベルの両方向に変化していることから、心理的に顕著な基本レベルを設定しても、その際用いられるワロン語等の地域諸言語の語彙素は、上位レベルへ総称化または下位レベルへ特殊化しており、基本レベルにとどまるわけではなく、むしろ、分類体系の構造および、プロトタイプの優位性こそが保持され安定しているといえることを示す。